

クローズアップ

# NGO・NPO

特定非営利活動法人

## ハート・オブ・ゴールド

できる人が、できることを、  
できる限り、続けよう！



↑アンコールワット国際  
ハーフマラソン

カンボジア唯一の国際  
認定レースでもあり、  
障がい者と共に走る  
チャリティーマラソン  
として、今後も平和を

**設立の経緯**  
アンコールワット国際ハーフマラソン  
一九九六年から始まった「アンコール  
ワット国際ハーフマラソン」は、世界に向  
かって非人道的な対人地雷の使用禁止を訴  
え、その参加費は地雷被害者の社会復帰や  
自立支援に使用されます。  
ハート・オブ・ゴールドは、この大会の  
運営を受け継ぐ形で、オリンピックメダリ  
ストの有森裕子を代表、ローレンモラー  
（バルセロナ五輪銅メダリスト）を副代表  
として一九九八年一〇月に設立されました。  
活動地であるカンボジアは、二〇年に及  
ぶ内戦の終結を迎えたものの、新政府成立  
後も政情は安定せず、国土の約半分に埋め  
られた地雷が多くの人々を傷つけていまし  
た。当時世界中から支援が入っていました  
が、スポーツ分野を通しての国際協力は、  
ハート・オブ・ゴールドのみでした。  
当初一四カ国一地域六五四人で始まった  
大会は回を追うごとに参加国、参加者数が  
増え、二〇〇八年第三回大会では、四三  
カ国二九六六名が参加（マラソン二五九三  
名、ウォーク一九八名、バイカー一七五名）  
しました。この大会は

希求するアジアのレースとして発展してい  
ければと考えています。  
**マラソンから保健体育科教育へ**  
マラソン大会を軸にした活動は次第に幅  
を広げ、二〇〇一年の第六回からは現地か  
らの強い要請で「スポーツを通じた青年  
・指導者育成の祭典」が開催されるよう  
になりました。マラソン前後の二日間行わ  
れ、競技はサッカー、バレーボール、バス  
ケットボール、バドミントンなどで、日本  
からは元五輪代表など、一流の専門家が現  
地入りしました。この取り組みはカンボジ  
アの教育・青少年スポーツ省の注目するこ  
ところとなり、三回目からは教育省認定行事  
となりました。  
こうした活動により、「体育科教育は情  
操教育や保健衛生教育を含めた人材育成の  
一環である」という認識が強まり、カンボ  
ジア政府から本格的な小学校体育科教育導  
入のための指導書づくりへの支援要請を受  
けました。二〇〇六年から三年間、「小学校  
保健体育科指導要領・指導書作成」協力作  
援事業が、JICA草の根技術協力事業と  
して、筑波大学と提携しながら進められま  
した。その後、二〇〇  
九年からはフェーズⅡ  
として小学校体育科教  
育振興プロジェクトが  
始まり、今後この国の  
体育科教育を担ってい



↑小学校体育科指導研修会

(特活) ハート・オブ・ゴールド

〒701-1213 岡山県岡山市北区西辛川 872-2 TEL&FAX 086-284-9700  
 代表理事：有森 裕子 e-mail：hginfo@hofg.org URL：http://www.hofg.org/



↑チャイルド・ケア・センター

指して協同組合の設立などを行うNGOです。現在、二カ所に分かれていた

HGでも二〇〇一年ごろから現地の要請を受け、孤児支援活動に動き始めました。日本から里親（ハート・ペアレント）月額一〇三五〇〇円を募り、チャイルド・ケア・センターの子供の生活費や教育費を援助します。現地協力団体の「るしな」は、農民同士の助け合いを通じた生活改善を

くナショナルトレーナーや、小学校教員育成校の教官などの人材育成を行っています。国際協力ではその支援で培われたものが、終了後も現地に引き継がれていくことが最も重要であり、非常に難しい課題です。このプロジェクトを通じて、政府機関が人材育成に力を注ぐことで、自国の発展を自分たちの手で進めていく原動力となることを願い、活動を進めています。

### 自ら国をつくるために

二〇〇二年に有森がUNFPA（国連人口基金）の親善大使に就任し、マラソン大会にもエイズ予防というスローガンが追加されました。かつてカンボジアは豊かな農業国でしたが、今や農業で生計を立てるのは難しく、疲弊した農村にエイズが入り込み、地雷と共に多くの社会問題を生んでいます。

チャイルド・ケア・センターを統合し、京都から来た大隅棟梁が青少年に木造建築の技術を教えながら、男子寮と女子寮を建築中です。人づくりには時間がかかるうえ、成果が数字に表れず目にも見えませんが、人材が育てば自ら国をつくる力になります。このプロジェクトでは、三年である程度の仕事ができるよう育て、建築や造園、その他収入創出ができる機会を提供するのが目標です。日本からもボランティア版ワーキングホリデーのような方法で作業に参加し、日本・カンボジアの交流のシンボリックな建物にできないかと考えています。劇場も併設して失われつつあるカンボジアの文化を守りながら、日本や世界中の人々と文化交流をしていければ素晴らしい相互理解、友好親善となるでしょう。

もう一つの自立支援事業として、二〇〇二年から岡山県の元教員を日本語教師として派遣、公立チエイ小学校内に無料日本語教室を開き、ニクラスの子どもたちが毎日一時間の日本語教育を受けています。また二〇〇六年からは、毎年一人ずつ岡山学芸館高校に留学生として受け入れてもらい、幅広い勉強の機会が与えられるようになりました。以前は夢を語れなかった子どもたちが、将来の夢に向かってチャンスを与えられ、自立へ



↑日本語教育

の道が開かれるようになってきています。  
**新しい取り組み**  
 (国内外ネットワークづくり)

同じような思いを持ち、問題に取り組んでいる個人やグループが一緒に手を結んで、問題を解決していくこと、いわゆる産官・学それにNGO同士が得意分野を分担して、協力して活動することによって、無駄のない、効率よい活動ができます。実は、これはなかなか難しいことですが（責任はどこにあるとか、どちらが先頭に立つとか）ハート・オブ・ゴールドはあえてこれに力を入れています。

例えば、小学校体育科教育支援では専門家として技術指導は筑波大学等、関連付属小学校の先生方が、受け持って下さっています。現地からも毎年教育省の人が研修に来ますが、これは岡山県国際貢献活動として、地方自治体が支援してくれます。体育の授業に必要なボールや器材は、日本の小・中学校や企業から寄付してもらっています。高校生が現地を訪れての運動場の整備や施設設置も行われました。また、今年から岡山市の現職教員が二年間、カンボジア事務所で調整員の補助として現地の先生方に教育技術指導を行っています。このように、多くのグループとネットワークを組んでより効率よく、拡がりをもって草の根活動できるようにますます知恵を働かせていきたいと思えます。

クローズアップ

# NGO・NPO

特定非営利活動法人

## アイセック・ジャパン

### 地方自治体における 外国人学生のインターンシップ

#### アイセック団体概要

アイセックはオランダに本部をもち、世界一〇七の国と地域で活動している世界最大の学生団体です。私たちはその世界に広がるネットワークを生かし、海外インターンシップ（海外研修）の運営事業を行っております。海外インターンシップというのは、その名の通り、学生が海外の企業等でインターンシップを行うことで、日本人学生が海外の企業で研修を行う送出事業と、外国人学生が日本の企業で研修を行う受入事業の二つがあります。

日本では二四の大学に委員会を有し、首都圏は東京大学、慶応義塾大学、早稲田大学など、また関西には京都大学、大阪大学などに委員会を持っております。

#### アイセック東京大学委員会 地方自治体受入事業部

普段の活動は委員会ごとに行っておりませんが、各委員会の中はさらに、扱う事業のテーマによっていくつかの事業部に分かれております。

東京大学委員会には八つの事業部がありますが、今回は東京大学委員会に設置されている、地方自治体受入プロジェクトについてご紹介させていただきます。

企業で外国人研修生を受け入れていただくのが一般的なアイセックの研修事業ですが、地方自治体での受入研修に特化して活

動を行っているのが、私たち地方自治体受入事業部です。

外国人学生を研修生として一定期間自治体に受け入れていただくことで、受入機関のみならず、その地域社会全体にインパクトをもたらしたいと考えています。例えば、外国人ならではの視点を生かした研修事業を行うことで、在住外国人の方の生活満足度向上を図ったり、外国人の研修生と一緒の職場で働くことで、職員の方々の多文化共生に対する意識改革を図ったりといったことです。最終的には、研修を通じて、日本人だけでなく、外国人にも住みやすい街づくりや、多文化共生の地域づくりに貢献したい、との思いでこの活動を行っております。

当事業部の特色としては、受入機関と当事業部と研修生の三者が密に連携して一つの研修事業をつくり上げる点にあります。以下にご紹介する過去の研修におきましても、研修内容の策定から、研修生の作成した報告書の翻訳作業、外回りの際の研修生同行など、様々な面で当事業部のメンバーがご協力させていただきました。

それでは、以下に過去に当プロジェクトで運営してきました研修をご紹介させていただきます。



↑お昼の休憩中の港区研修生

#### 過去に運営した研修

(特活) アイセック・ジャパン 会員団体 東京大学委員会 地方自治体受入事業部

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-12-7-202 TEL 03-3264-2783 FAX 03-3264-2783

e-mail: tokyo@aiesec.jp URL: http://www.aiesec.jp

●千葉県鎌ヶ谷市役所での研修(二〇〇四)

二〇〇三年度に発足した当プロジェクトが、初めて運営した研修です。「生活広域交流拠点の整備への提言・外国人市民にとって住みやすいまちの創出への提言」をテーマに研修を行いました。

来日前に外国人研修生/アイセックメンバーによる事前調査を行い、研修第一週目に事前調査報告会を開催しました。交流関連団体への聞き取り調査、フィールドワークを経て、研修後半では外国人住民対象のインタビューや実地アンケート調査を行い、一〇〇ページ以上の研修報告書を作成しました。また、研修の最後には東京大学駒場祭にてセミナーを開催し、日本の外国人施策の現状についての発表も行いました。

●東京都文京区教育委員会での研修(二〇〇六)

文京区では二年間研修生を受け入れていただきましたが、一年目の研修では、文京区立の幼・小・中学校で授業視察を行い、外国人から見た文京区の教育について研修生の自国の教育制度と比較した報告書を作成しました。さらに、研修生の自国の教育課程や手法を採り入れた検証授業を実施しました。加えて、各学校で研修生のホストファミリーを公募して、一カ月間のホームステイを実施したほか、研修生による国際理解教室の開催、運動会・学芸会やPTA活動などの学校行事への参加といった生徒や保護者、市民との交流活動にも積極的に

参加しました。

●東京都文京区教育委員会での研修(二〇〇七)

文京区における二年目の研修では、主に三つのことを行いました。

一つ目は、文京区立の幼稚園、小・中学校で授業視察を行い、外国人から見た文京区の教育について研修生の自国の教育制度と比較した報告書を作成しました。

二つ目は、研修生の自国の教育課程や手法を採り入れた検証授業を実施(異文化理解・初等英語教育について)しました。

三つ目は、研修生が不登校・道徳教育・英語教育というテーマを設定し、それぞれについて日・中・韓三か国での教育の在り方を比較しながら研究し、報告書を作成しました。

●東京都港区役所での研修(二〇〇八)

港区役所での研修は、区内在住外国人を対象に、インタビュー方式で港区のサービスや施策に関する要望や意識等の調査を行い、行政面でのニーズを探るとともに、二〇〇九年度より開始する港区国際化推進プラン策定の基礎資料とするための報告書を作成しました。

また、各課での外国語案内作成にあたっての必要な情報の提言を外国人の目線から行ったり、また、区内在住外国人が出席する外国人会議に出席し、短期滞在者の立場



↑区内の小学校を訪れ、検証授業を行う文京区研修生

から研修中の所感などを述べたりしました。港区では今年度も九月より研修が行われ、外国人相談の基礎調査を行う予定です。

次年度の研修生受入先を探しております

次年度の研修に向けて、ただいま研修生をお引き受けくださる自治体を探しております。

研修内容に関しましては、各自治体にあつたご提案をさせていただきます、自治体のご要望とすり合わせを行って決定させていただきます。

また、ビザの手配、入国手続き、研修生の日常生活上のサポート等は全てアイセックで承ります。また、研修生の選定作業は、研修生のスキルや使用可能言語に関する自治体のご希望をお聞きの上、世界中の研修生候補が登録されたアイセックのデータベースからお探しいたします。

もし外国人研修生の受け入れにご興味をお持ちいただけましたら、お手数ですが左記にご連絡ください。担当者がお伺いし、直接ご説明させていただきます。ご連絡お待ちしております。

アイセック・ジャパン  
 会員団体 東京大学委員会  
 地方自治体受入事業部  
 山本祐輝  
 E-mail: yuki.yamamoto.02@gmail.com  
 TEL: 0800-65688-01609